

ハンドボールで得たもの

宇田久美

私がこのクラブに入部したのは一年の時
 であつた。でも、その時一年生の部員が、
 ニ、三人しかいなかった為、よくさぼつた
 ものである。こんな事は言ひ訳にはならな
 いが、何となく練習しにくかつた様に思
 う。今から思うとその時なせと練習し
 なかつたのであろうと悔まれます。で
 もあつたかましくも初出場した時の気
 持は今だに忘れがたく、新調のユニ
 フォームの背番号2が、その時



以来、私の愛する数字となりまし
 た。私達二年生が主力となつた時、
 コーチとして額田さんを迎へ、一層張
 り切つた気持になつたものでした。そし
 て苦しめば苦しむ程、ハンドボールを愛す
 るようになりました。変わるく、指導し
 ていく度に、少しでも強くなりたい、
 一つでも余計に勝ちたいと、心では思いつ
 つも念願を成しとげずに卒業した事に一ま
 つのさびしさを感じます。夏の暑い直射日
 光の下で、皆一丸となつて、心ゆくまで練
 習した後の心良さは、運動をしていてよか
 ったとその度に思ひました。そうして努力

が報われ、強敵豊中高校を一点差ではあれ
 、勝つた時の喜び、スポートをしてる者
 のみが味わう事のできる快感だと思ひます
 。その時は唯もう夢中で走り、投げ、守り
 教えていただけの事が使えていたかどう
 かはこの次に、フアイトだけで頑張り通し
 たものです。部員同志、昔話かはすも時、
 あの時ほど長くやつたものだと、しみじみ語
 るのです。しかし、苦しい思ひ出ばかりで
 けありません。自分自身の事になつてし
 まいます。その時おぼかりでなくチ
 ームにとつても苦しつた時だつたと思
 います。おぼいつてもバツクを弁つ
 てありましたので、余り攻撃側

には加わつた事がありませんでした。
 た。しかしその時、フワードの主
 力が病氣、負傷等でつぎつと倒れ、
 ついに私が攻撃側に列りだされたのです
 。その時は、とんとんまでユニットをしほ
 られました。その結果、ミアニアユニットを
 憶える事が出来ました。その時はもうし
 んどく、わがままではありましたが、フ
 ワードのむつかしさを悟つたものです。
 その時はまだ自分が倒れるまでやるという
 気力に欠けていたのは事実です。その練
 習の結果、敗けた試合ではありましたが、
 初めて、ユニットに成功した時は本当に嬉

しいでした。

自分というものをかえりみれば、唯夢中でハンドボールに没頭し、頭を使ってやる事のないものでした。しかし卒業後、合宿生活をしてゐる後輩達をみると、何と恵まれてゐるのであるうと思ひます。晩には三イテイングする事になつて、より詳しくルールを取得し、団結が一層固まり、より良い効果をあげてゐるからです。そこで私達も、もっとやれば良かったと思ひ、生葱気にももっと強くなつてゐたのにと語り合つてゐます。

真冬でも、又、真夏でも、短い袖の練習着を身につけて元氣よく運動場に飛び出し、真暗になるまで飛び回つたものです。ハンドボールの試合をみるたびに、練習したいなあと思ひます。そしてこんな苦しみや、比べて他の事など何でもない、少し位でへこたれてはいけなないと心にいい聞かせます。最後に、ハンドボールをした事によつて、ジャンプシュート等を取得しました。しかしそれにも増して、どんな事に多く、けなひがまん強い精神がつちかわれた事、チームワークの重要さを理解した事等、これが私の三年間のハンドボールクラブ員としての生活の中で最大の収穫だと思ひます。

完

十三期生

有意義なハンドボール生活

安村かつ子

私は今ハンドボール部に入部した事を深く後悔してゐる。なせなら、文才のなれ私にまで原稿を書くようにとの脅迫電話がかかつてくるから。随分おぼつたけれど、編集員の熱心さにはほととてまかなわれないとあきらめた。

自分の高校生活を振り返つてみて、クラブ活動の事を除くと、ほとんど何も残らないように思える。学校には、毎日ハンドボールをするために通つたようなものである。それほど熱心に練習したにもかかわらず、試合成績のかんばしくなかつたことは、まことにもつて不思議である。だが、負け惜しみみだりに強いられたチームには、弱弱しいチームなりに強いチームにならざるを得ないものがある。試合に負ける度に皆で話しあつたりしたものだ。そして、手に善戦した時のあの大きい喜びが、一年生の時だつたか、試合の時つねに食料を仕入れておいて、試合が終るや着換えもろくにして、お弁当その他をえりて、皆で丸くなつて食べたのは、最も楽しい思い出の一つである。今でもそのパークツイ